

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
13854022	ストレス応答の分子機構解明に基づく生物学的情報処理システムの理解と応用	一條 秀憲 (東京大学・大学院薬学系研究科・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>外部のストレスに対して、細胞がその情報を細胞内においてどのように処理するか、特に外部ストレスの量的差を認識して、細胞内での応答性が異なる、つまり質的差、を示すメカニズムの解明をめざしたユニークな研究である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究代表者が発見したシグナル分子 ASK ファミリーキナーゼをアプローチの軸として、全体的なゴールが明確な研究であり、非常にレベルの高い、かつ多くの研究業績が得られている。 2. 疾患との関連、創薬を見据えた研究を展開しており、今後のさらなる飛躍が期待できる。 3. すでに数種類の ASK ファミリー遺伝子欠損マウスが作成されており、その詳細な解析によって得られる知見に期待が寄せられる。 4. 創薬を念頭に置き、X 線結晶構造解析、あるいは ASK1 活性を制御する低分子化合物のスクリーニングに関する研究があまり進展しなかった点は悔やまれる。 5. ASK1 活性化の量的な差が質的に異なる細胞応答を生み出すことを見出したことは高く評価できる。 			